

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第6学年 「国語（教育出版）」

122時間（70％）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
六上					
1	Aア 知・技(1)ア Cエ 知・技(1) オカケ Bア 知・技(2)イ	言葉で伝え合おう	自分の質問してみよう	2	・「自分の質問をしてみよう」は、状況によって導入で扱い、詩の連ごとに見えてくる風景を想像しながら、繰り返し音読することを中心の活動とする
			風景 純銀もざいく		
			あの坂をのぼれば	2	・登場人物の心の動きを想像しながら朗読し、すてきだと思ふ情景について交流することを中心の活動とする
			図に表して考えよう	3	・マッピングやベン図等の思考ツールを活用することによって、考えや意見を図式化して整理できることを中心に指導する
2	Bアカ 知・技(3)ア Cアウ 知・技(1)カ	一 筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しもう	春はあけぼの	2	・一読し概要を捉えた後、マッピングで季節の言葉を広げさせる ・マッピングを基に、「私の枕草子」を書かせる
			薫風／「迷う」	3	・二つを比較しながら、具体例、筆者のものの見方・考え方の違いをまとめることを中心の活動とする
3	Bイ 知・技(1)オ 知・技(1)エ		随筆を書こう	4	・体験や事例を書き出し、自分の考えを整理して、随筆の特徴を理解させる
			漢字の広場①三字以上の熟語の構成	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			五年生で学んだ漢字①	-	・①②③をまとめて扱う
	書写	字形	3	・漢字の部分どうしの位置や大きさの関係を意識させる	
4	Cウ 知・技(2)アイ 知・技(1)カ	二 筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう	雪は新しいエネルギー	4	・雪のエネルギー利用の事例とその利点を整理し、筆者の説明の仕方の特徴をつかむことを中心の活動とする ・考えを深めるためには、「分析する」ことが大切であることを理解させる
			主語と述語の対応をみる	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
5	Aオ 知・技(1)オ Bエ 知・技(2)イ	三 立場を決めて、主張を明確にしよう	地域の防災について話し合おう	5	・話し合いの論題は教師側で事前にアンケートをとるなどして明示し、立場を決めた上で自分の考えを整理する方法やパネルディスカッションの進め方を理解させる
			パンフレットで知らせよう	4	・図表や写真、絵などを用いて、自分の考えが伝わるように書くことを中心の活動とする
6	知・技(1)オ 知・技(3)ウ 知・技(1)エ 知・技(1)エ		雨	1	・季節に合った言葉や気になる言葉を集め、語彙を増やしていく
			世代による言葉のちがひ	1	・言葉は時代と共に変化していること、相手や場面に合わせて使い分けが必要であることを理解させる
			漢字の広場②複数の意味をもつ漢字	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			五年生で学んだ漢字②	-	・①②③をまとめて扱う
7			文字の大きさや配列	3	・用紙に合った文字の大きさと配列に注意させながら、小筆か筆ペンを使って書かせる
			効率のよい書き方	2	・文字と文字とのつながりを意識して書かせる ・点画の間をつなぐ気持ちで書くことで、速さにリズムが生まれることを実感させる
8	Cイエ 知・技(1)ク Aエ 知・技(1)ク	四 すぐれた表現の効果を考え、登場人物の心情を読もう	川とノリオ	5	・場面の様子や人物の心情を効果的に表す「比喻表現」「色の表現」「体言止め」「擬人法」「繰り返し表現」等の表現の効果について考えることを中心の活動とする
			教えて！あなたのとっておき	2	・相手の話をくわしく引き出す方法を中心に指導する
9	Cイ 知・技(1)オ 知・技(1)オ 知・技(2)ア		◆詩を味わおう イナゴ	1	・三連目の自分なりの解釈を伝え合わせる
			『知恵の言葉』を集めよう	1	・時間によっては、「知恵の言葉」を考えさせてもよい
10	Bウ 知・技(1)カク Aエオ 知・技(1)ア 知・技(1)オ 知・技(1)エ	五 てんかいを考えて、表現を工夫して書こう	物語を作ろう	4	・これまでに読んだ物語からよいと思った表現を参考にさせ、人物や場面の様子を効果的に表した物語を作ることを中心の活動とする
			会話を広げる	3	・会話が広がるような答え方や、話す順番を調節し合う工夫を考えて話し合うことを中心の活動とする
			漢字の広場③熟語の使い分け	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			五年生で学んだ漢字③	1	・本時で①②③をまとめて扱う
			書写	筆記具の選択	2

大下					
11	Cオ 知・技(2)アイ	一 「心の世界」 について考え、自 分の考えを伝え合 おう	あなたは どう感じる？	1	・それぞれの感じ方の違いについて考えさせる。
	Cオカ 知・技 (2)アイ		ぼくの世界、君の世界	5	・大まかなあらすじがわかるワークシートを用意して、家庭で事前に読むことを課題とする ・要旨を読み取ることを中心の活動とする
12	Aエオ 知・技(1)ア	二 説得力のある 文章を書こう	うれしさって何？—— 哲学対話をしよう	4	・対話の中で自分の考えと相手の考えとを比較させ、自分の考えが深まることに気付かせる
13	知・技(3) イウ		言葉は時代とともに	5	・教材文の概要を捉え、調べたい言葉を身のまわりから探し、自分の考えを書くことを中心の活動とする
14	Bウ 知・技(3)ア	三 登場人物の変 化を読み、自分の 考えをまとめよう	自分の考えを発信しよう	5	・理由や考えを支える事例を示して、説得力のある意見文を書くことを中心の活動とする
	知・技(3)ウ 知・技(3)オ		漢字の広場④ 音を表す部分	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
	書写		書きぞめ	2	・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間をとる
15	Cイエ 知・技(1)オ	四 伝記を読ん で、人物の生き方 について自分の生 き方についてまと めよう	きつねの窓	6	・場面の移り変わりの中での「ぼく」の心情の変化を考えることを中心の活動とする
16	Aイ Bウカ 知・技(1)イ 知・技(3)オ		書評を書いて話し合おう	5	・書評によって、自分の伝えたいことが伝わったかを交流させる
17	知・技(1)キ	五 出会った言葉 をふり返ろう	敬意を表す言い方	2	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
	Cオ 知・技(1)オ		言葉と私たち	1	・3人のメッセージから言葉に対する感覚について考えさせる
	知・技(1)オ		漢字の広場⑤ 同じ訓をもつ漢字	1	・他の漢字についても考えさせる
	知・技(1)エ		五年生で学んだ漢字⑤	1	・本時で④⑤をまとめて扱う
18	書写	まとめ	3	・6年生のまとめとして、学習したことを生かして卒業記念のような作品を書けるように指導する	
20	Cオカ 知・技(1)オ	五 出会った言葉 をふり返ろう	伊能忠敬	8	・伊能忠敬の生き方を捉え、それに対する自分の感想や考えをもつことを中心の活動とする
	知・技(3)ウ 知・技(1)オ		日本語の文字	2	・文字の歴史を確認し、現在ではどのように使い分けられているのかを理解させる
	知・技(1)オ		漢字の広場⑥ さまざまな読み方	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
21	A B C 知・技(1)イ	ひろがる言葉	7	・1年間の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する	

※時間数の精選方法（例）

○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする。

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力（指導事項）を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「随筆を書こう」では、指導事項イの「文章全体の構成や展開を考えること」を中心に指導し、教材「パンフレットで知らせよう」では、指導事項エの「図表や写真、絵などを用いたりして、自分の考えが伝わるような書き表し方の工夫すること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容であるので、同じく家庭での課題として取り組ませたり、①②③、④⑤をそれぞれ1時間としてまとめて扱ったりします。

○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が【知識及び技能】（3）「我が国の言語文化に関する事項 オ」になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。言語活動例を参考にして、読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「書評を書いて話し合おう」などの学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校6学年では年間30時間程度行うものとありますが、教育出版では、パンフレットを書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えばページの割り付けで文字の大きさや配置配列といった指導事項をおさえることが可能です。（本資料では、書写に取り立てた指導を15時間（50%）で作成しています）

○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少数者での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。